

うひはたぶみ (初機踏)

H.A.M.A.木綿庵だより
第21号
2018(平成30)年9月26日
(編集発行 梅田正之 090-5042-7775)

糸に求められる質 — 夢のような話が現実に —

いつの日か、自分が栽培した綿を用いて、自分が紡いだ経糸と緯糸で機織りをしてみたい—。夢のような話だと思っていたことがとうとう現実になりました。

これまでに紡ぎ貯めた糸の総量は約2,500g(667匁)。まず、経糸に糊付けです。平成30年8月18日。手紡ぎ糸258gに対して糸量の10%の布海苔(ふのり)25gを用意。水625ccを加え、ゆっくり加熱すること約40分。布海苔の元の形状がなくなるまで手を止めずに攪拌しながら、さらに水を625cc加えます。したがって、水の総量は布海苔の50倍にあたる1,250ccとなります。火を止めてからティースプーン1杯のサラダオイルを加えさらに攪拌。晒布で濾過して、繊維質を取り除きます。

濾過した布海苔を鹽(たらい)に移し、糸を漬け込みます。ところが、布海苔が予想以上にドロドロの状態、漬け込むというより練り込む状態になってしまいました。しっかり練り込むこと約15分。本来であればこの状態で袋に入れて密閉し、しばらく寝かすべきなのですが、気持ち焦ってしまい、そのまま物干し竿へ。幸いお天気は良く、湿度も低く、風もあり、30分から1時間置きに手で糸を捌き、罫を回転させること約5時間で、十分に乾燥させることができました。

整経は8月24日。糸枠(小枠)は8枠使用。整経長4,420cm。整経重100.0g。総本数192本。

巻き取りは8月26日。糸の両端の固定が難しく、どうしても糸の張り具合を均等均一に保つことができず悪戦苦闘。上部が取り外せるタイプの荒箆(ありおさ)が無いため畦返しで対応。相楽木綿伝承館の機織り教室で使用する巻き取りドラムや荒箆の有り難みを実感!

次の工程が、自宅織機の場合には最難関となる機掛け(はたかけ)です。織機に千巻(ちまき)を取り付け、畦棒を頼りに1本ずつ糸を綜統に通し、さらに箆に通していきます。双羽。すべて一人で行いますので、この作業が終わればもう出来上がったも同然のような気持ちになります。「段取り八分」どころか、「段取り九分五厘」くらいの感覚です。結局、細心の注意を払ったつもりでしたが2箇所箆羽を飛ばしてしまいました。ただ、手紡ぎ糸による初めての作品ということで、今後の戒めとするためにも今回は修正はせずにそのままにしておくことにしました。

機掛け、織り付けは8月27日。緯糸は精練のみの糸と、藍の生葉で染めた糸の2種類を使用。織幅は9.0cmですので、10分で10cm以上は織り進めることができます。経糸、緯糸ともに自分で紡いだ糸で機を織ってみて、初めて「糸に求められる質」の何であるかがわかったような気がします。



布海苔をお湯でとくす



手織り中の自宅織機



切れた経糸の始末の痕

Monthly Data

【天理やまのべ木綿庵】(問い合わせ件数 平成30年8月24日～平成30年9月23日)
埼玉県1、東京都1、京都府2

【H.A.M.A.木綿庵】(平成30年8月24日～平成30年9月23日)

メールを含む各種相談件数1、綿畑や作業場の見学を兼ねた事前申込済来庵者数4件7名



《綿の栽培記録 2018》－ 平成30年度版 その5－

9月 4日（火） 洋綿の開絮を確認。初収穫を行う。

和綿より遅れること約3週間。いったんはじけはじめると次から次へとはじけてきます。ただ、洋綿の虫害が予想以上です。被害の拡大を防ぐためにブランチの状態収穫し、葉をすべて落とし軒先ではじけさせるようにもしていますが、時間と場所が限られていて思うようにはいきません。なお、4日に近畿地方を直撃した台風21号の綿木への影響は思ったより少なく助かりましたが、それ以降も続く周期的な降雨のため和綿、洋綿ともにきれいなコットンボール、実綿が少なく収穫量に影響が出ています。



写真は虫害を受けた洋綿のコットンボール(左)、1号畑の綿畝(中)、比較的きれいな洋綿のコットンボール(右)。

《藍の花咲く》平成30年9月15日

2号畑で栽培している藍が花をつけはじめました。生葉から色を抽出できるのは花がつくまで、との由。藍の生葉染めには1畝(うね)3mほどあれば充分です。今回は植えすぎてしまいました。

【綿の加工の作業記録】 (梅田1人の作業量)

- 糸車を用いての糸紡ぎ量 (和綿：平成28年, 2016産。丹羽正行氏による打ち綿)
8月24日～9月23日 (作業実日数26日) 糸の総量183.8g (49.0匁) 総時間447分 (7時間27分)
※1分間≒0.411g 1時間≒26.5g (7.1匁)

【研修等の記録】

- 平成30年8月28日 奈良県青少年・社会活動推進課「子ども・若者支援機関研修」参加(奈良県庁)
- 平成30年8月29日 奈良県青少年・社会活動推進課へ、「若者の居場所登録」申請書提出
- 平成30年8月31日 奈良県青少年・社会活動推進課健全育成係職員の現地視察を受ける。
- 平成30年9月 2日 「相楽木綿伝承館：機織り教室専科①」(京都府相楽郡精華町) 受講
- 平成30年9月 7日 内閣府「子供・若者育成支援のための地域連携推進事業」近畿ブロック研修会に参加(京都教育文化センター：京都市左京区聖護院)
- 平成30年9月20日 奈良県庁より「若者のための居場所」登録証(申請認可)を受領
- 平成30年9月22日 『大和学』への招待―「郡山の幕末維新と藩主柳澤保申」受講(大和郡山三の丸会館：大和郡山市南郡山町)
- 平成30年9月23日 小学館発行アウトドア雑誌『BE-PAL』の取材を受ける

【以下の写真は、左：藍の花、中：和綿の茶綿の花(2号畑)、右：和綿の茶綿のコットンボール(2号畑)】

